

令和7年度 西都市立妻北小学校 学校評価

学校の教育目標		「生きる力」を育み、心豊かでたくましく、主体的実践のできる児童の育成		学校経営方針	～「つなぐ意識」を大切にする教育～ ◆教師と子どもをつなぐ ◆子どもと子どもをつなぐ ◆教師と教師をつなぐ ◆1年間をつなぐ ◆9年間をつなぐ ◆学校と家庭・地域をつなぐ		
重点目標	目標達成のための手段 (評価指標)	具体的な取組	保護者の評価	児童の評価	教師の評価	今後の改善策	学校関係者評価コメント
(1) 生徒指導の機能や特別支援教育の視点を基盤とした学校経営と学年・学級経営	① 職員研修の前半に「生徒指導研修」「特別支援教育研修」を位置付け資質向上を図る。	(ア) 「生徒指導提要(新)」を活用した研修の実施とその機能を生かした「チーム学校」としてのマネジメント機能の構築を図る。 (イ) IUDハンドブック(県教委)を活用した理論研究と実践を図る。	アンケート項目内の、「とても思う」「思う」の合計を表記している。 (ア) 87% (イ) 85% (ウ) 85% (エ) 84% (ア) 88% (イ) 88% (ウ) 78% (エ) 89% (ア) 97% (イ) 96% (ウ) 96% (エ) 96%			(ア) 教科指導を通して(体育など)、他学級や友達を知ることなどを踏まえた全体指導を行っているが、さらに継続して、他の児童とのつながりを意識していく。また、互いを認め合う場も継続して設定していく。児童だけでは気付けない部分も、教師が気付いて一人一人のよさを確認していくようにする。自己肯定感や自己有用感などについて、今後も職員が研修を深め、指導の際に常に意識するようになる。そして、一人一人が活躍できる場を設け、教師が観察する。称赞と叱責の割合を7:3にすることを目指す。 (イ) 日々、IUDハンドブックを意識しながら授業を展開していき、発表の場づくりとして、全体だけでなく、ペアやグループでも話し機会を設け、一人一人が学び合いに参加しやすく工夫をしていく。今後も引き続き研修等で励み、定期的に振り返り(チェックリストの活用等)を行うことで、IUDを意識した授業づくりを考えていく。 (ウ) IUDハンドブックを活用して、休み時間等に教室環境を整える。子ども自身が整理された学習の環境の良さを実感できるようにする。 (エ) 発問の形式の工夫(はい・いいえの答えで済むものや挙手で意思を示せるもの等)をしたり、児童一人一人がしっかりと自分の考えをもてるように時間をしっかりと確保したりする。ICT機器活用の向上を図るために職員が研修を進んで受け、職員のスキルを向上させる。(Google Classroom等の活用) アプログとデジタルを指導内容によって精進しながら使い分けていく。	(ア) 褒めて伸ばすことは年齢に関係なく必要だと感じる。児童が切磋琢磨することは良いことであり、継続してほしい。 (イ) 参観日の様子を見る限り、落ち着いた学習態度である。IUDを意識して教室の整理や授業をしており、それが児童にもしっかりと浸透している。 (ウ) 児童が自発的に活動ができ、安心して過ごせる物的環境を整えてほしい。 子供への配慮について、様々な取組がされておられ、感心している。特に、特別支援学級のアウトなど工夫が見られ、着ち着いて授業を受けているように感じる。 (エ) ICTの活用で教師と児童が接する機会が増えているのではないかと。
	② 学校評価(自己存在感の高揚、心理的安全性)項目を設定し、85%達成をめざす。	(ウ) 落ち着いた過ごせる教室環境づくりを行う。 (エ) ICT機器の活用や誰もが参加できる発問指示の工夫をする。	(オ) 72% (カ) 評価せず	(オ) 71% (カ) 88% (カ) 71% * (カ)に係るアンケート内容は2つ	(オ) 83% (カ) 93% (カ) 89% * (オ)に係るアンケート内容は2つ	(オ) 「ど・み・そ」の学びを意識した授業づくりに努めた。校内研修の取組として、学年部で授業を参観・評価し合い、授業改善を図ることができた。今後も教員間で意見を出し合いながら、よりよい授業を考えていく。「ど・み・そ」の掲示資料を活用し、児童に視覚的にも意識させる。教師は、アウトプットする機会をふんだんに設けているが、アウトプットに苦手意識をもっている児童は自己評価が低い。児童のみに応じて目標を設定しスモールステップで評価していくことで自信を深めさせる。 (カ) 自分の考えを児童一人一人がもちつことができるように、発問の工夫やヒントカードなどの工夫を行う。また、振り返りの時間を確保するために、学習内容の精選、タイムマネジメントを行う。さらに、児童に課題意識をもたせたり、課題解決の必要感をもたせたりすることを意識して授業を進める。 初めての「さいと学(1年)」では、くすのき新聞の作成を通して西都のことについて詳しく学ぶことができた。 今後も外部講師を活用することで、学んだことを自分たちの言葉で表現できる機会を多く設定する。	(オ) 学校の取組を保護者が十分に理解していないように感じる。学校の取組をもっと発信してどうか。 3割近い児童が自分の考えを発表したり書いたりすることに苦手意識をもっている。その児童は文字、単語、そして文章へと粘り力が十分に育っていないと思われる。今年度の目標にはないが、読書・読解力の向上が大切だと考える。「どうして?」「なんで?」と疑問をもち、みんなで話し合える学校はすばらしいと感じる。 学校が一生懸命取り組んでいることは分かるが、児童の意識が低い。原因究明が必要である。 西都中学校に進学することを考えると、妻北出身の子ども達は多人数の中での学習で、他の少人数の小学校出身の児童と比べ、アウトプットする児童数が少ないような気がする。 (カ) 児童の評価が低い。タブレット端末の使用で手書きが減ることによる学力低下が心配である。書くことの大切さも必要である。
(2) 主体的に関わる子どもを育て「子どもが主語」となる授業づくり	① 学校評価「アウトプット型の授業改善」の項目80%をめざす。(R6:52%) ② 研修リデザインに係る理論構築と評価指標の研究による校内研修の活性化を図る。 ③ 「さいと学」における知的総合化を図るための「総合的な学力育成ロードマップ」の具現化を図る。 ④ 「自立した学習者」を育てるための「資質・能力」の設定と育てたい姿に基づく指導内容及び指導方法の研究をする。	(キ) 授業評価『「さいと学」における発想を生かした提案型・実践型の発表を自分の言葉で表現する』の項目85%をめざす。(R6:73%)	(キ) 78% 自主的・自立的活動について81%	(キ) 80% 話し合い活動について80% 委員会活動について82%	(キ) 73% 話し合い活動について73% 委員会活動について93%	(キ) 学習したことを生かして、これからの自分とつなげることや生活に生かすことを意識させて学習を進めていく。妻北地域づくり協議会の方、地域人材と協力しながら、進んでいく。学年ごとに1回は探究の過程を経験できるようにする。 ○ 学級会や委員会活動、クラブ活動等を通じて、自分たちでやりたい、できるようになりたいという思いをもち、話し合ったり、準備したりできるような場面を設定する。また、発達段階に応じた話し合いの形式を考え、経験させていく。 ○ 特別活動では自分生かせる場や訓練組むように、個に応じた支援を心がけていく。	(キ) 学校職員と地域づくり協議会が年度初めに協議し、学校目標達成に向けた具体的な取組を共有していくとよい。地域との関わりがあつてこそ「さいと学」であり、地道な協力があつてこそ成果であることと改めて考えてほしい。 自ら考え、行動に移せるようになってきたと感じる。孫が4月から委員会活動があることと聞いて張り切っているのは、この指導方針のおかげなのではないかと感じる。
(4) 健康と安全・安心を保障する学校づくり	① リスクマネジメントに係る評価指標を作成し、意識の高揚を図る。 ② 地域づくり、学校運営協議会と連携した避難訓練の在り方を模索する。 ③ 体力テストの全ての項目でTスコア5.0以上をめざす。	(ク) リスクマネジメントに係る研修を実施するとともに保護者・地域も参画する避難訓練を実施する。 (ケ) 「スクールスポーツプラン」の具体的実践と学校保健委員会の内容の充実を図る。	(ク) 82% (ケ) 63% * 学校保健委員会のみ評価	(ク) 95% (ケ) 89%	(ク) 90% (ケ) 55%	(ク) 実際には大雨時の避難があったが、訓練での学びを生かして実施でき、児童の安全を確保することができた。訓練の大切さ・重要性を実感したため、次年度以降も毎年訓練を行っていく。様々なリスクが存在するので、職員一人で行わず、気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。 (ケ) 場の確保や用具の準備によって、運動量の確保に努めた。今後も児童の運動量を確保するように授業を構築していく。体育主任が中心となり、様々な運動器具を整備した。暑さ対策などで運動する機会が減り、児童の体力の低下がみられるため、今後も運動するための工夫が必要である。体育の授業だけでなく、児童が自発的に体を動かすことができるような環境づくりを今後も行う。	(ク) 災害はいつ起こるかわからない。訓練と備えは大切であるため、引き続き取り組んでほしい。 (ケ) 児童の評価89%に対し、教師が55%とかなり低い。「スクールスポーツプラン」活用による体力向上について、問題点把握と対策をお願いしたい。さらに、プラン内容の再考も必要ではないかと。 以前と比べると体力の衰えを感じる。気温との関係もあるが、外遊びの機会が増えることよと思う。 育成会の減少で、登校班がなくなれば歩いて登校する児童が減ってくるのではないかと感じる。体力面で足腰の強化をする必要もあるのでは、運動の機会を増やすことが必要だと感じる。
(5) 自分も、同僚も、子どもたちも「自分らしく」居られる教育環境づくり(全職員・全児童のウェルビーイング)	① 教職員評価制度における「評価シート」の職務行動評価(教職に必要な素養)の項目で自己評価「a」をめざす。	(コ) 人材開発と組織開発を志向した校内研修の推進を図る。 (サ) 「学びの改革(授業改善)」と「学校の在り方改革(業務改善)」を一体的に推進する。 (シ) ワークショップ型の研修を取り入れ、対話の場面を意図的・計画的に設定する。			(コ) (サ) (シ) 100%	(コ) (サ) (シ) さまざまな分野の校内研修・校外研修に参加した。研修の中では参加者同士でコミュニケーションを取る場面もあり、日々の業務の見直し等を行うことができた。今後は、一人一人の職員が、自分の得意分野や実践を5分程度で発表する場を作ったり、引き続きワークショップ型の研修を取り入れたりして、教職に必要な素養をさらに育て、校内業務に役立てていきたい。	・学校職員が教育目標達成に向けて研修に励んでおられる。繁忙の中ではあるが、全職員・児童のウェルビーイングの実現に向け研修をお願いしたい。 ・他者との触れ合いで自分自身を深く知ることができ、刺激を受けることは成長に繋がると思う。 ・福祉や人権に関する研修を取り入れてほしい。

その他の意見

- 休日に外遊びの様子をあまり見かけない。しかし、出会う児童は丁寧な挨拶、言葉遣いである。
- 全体的に姿勢が気になる。立つ姿勢、座る姿勢が「スマホ首」になっているように感じる。タブレット端末活用の弊害なのか、鉛筆を握る力や筆圧が弱くなっているように感じる。
- 育成会がほとんど少なくなってきた。子供会の活動が無くなることで地域の住民との関わりが少なくなっていく気がする。難しいとは思いますが、学校主導で子供会の再考ができないものか。